

2017 年度 小委員会活動成果報告

(2018 年 1 月 30 日作成)

小委員会名	温熱感小委員会		主 査 名：齋藤 輝幸 就任年月：2016 年 11 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (熱環境運営委員会)		委員長名：岩田 利枝 主 査 名：尾崎 明仁
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2019 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの温熱感・快適性研究を踏まえ、本領域の今後の発展の促進と展開を模索する。 ・最新研究のレビュー、シンポジウムの企画・開催と適切な情報発信を行う。 ・学術規準の改定ならびに策定に関わる検討を行う。 		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無		
	主査：齋藤 輝幸 (名古屋大学) 幹事：山岸明浩 (信州大学)、高田暁 (神戸大学) 委員：都築和代 (豊橋技術科学大学)、久野 覚 (名古屋大学)、久保博子 (奈良女子大学)、松原齋樹 (京都府立大学)、田辺新一 (早稲田大学)、室 恵子 (足利工業大学)、土川忠浩 (兵庫県立大学)、宮本征一 (摂南大学)、三上功生 (日本大学)、後藤伴延 (東北大学)、中野淳太 (東海大学)		
設置 WG (WG 名：目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・温熱環境規準 WG：室内温熱環境測定法等の学術規準の改訂について検討する。 ・温熱環境情報発信 WG：我が国における温熱環境研究の最近の動向調査および評価と、将来の研究方向性の検討を行う。 ・熱的快適域検討 WG：温熱的快適域に関する基礎資料を整理するとともに、現状の快適域に関する考え方について検討する。 		
2017 年度予算	160,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	なし
講習会	なし
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. 第 47 回熱シンポジウム「第 47 回熱シンポジウム 温熱感研究における建築空間の快適性と健康性の捉え方を探る」 (資料名) 同上 参加者数 104 名
大会研究集会	なし
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 近年の温熱感・快適性研究成果を踏まえて熱シンポジウムを開催し、快適性と健康性の捉え方に関する情報発信を行い、今後の展開について検討した。 2. 学術規準の改定に関する検討、および温熱感・熱的快適域研究に関連する研究分野の情報収集を行った。
委員会活動の問題点 ・課題	1. 熱シンポジウムの成果をフォローするために委員会開催を予定しており、特に大きな問題はない。

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2017 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A B C D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>小委員会および WG メンバーの協力のもと、「温熱感研究における建築空間の快適性と健康性の捉え方を探る」というテーマを掲げ、多数の参加者を得て熱シンポジウムを開催することが出来た。</p> <p>また、熱シンポジウムの企画・運営と平行して各 WG もそれぞれ検討や情報収集を進めており、今後の成果が期待できる。</p>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。